

東北復興宇宙ミッション2021 宇宙を旅した飯舘のエゴマ(じゅうねん)が帰還

一般社団法人ワンアースによる「東北復興宇宙ミッション2021」は復興する東北の姿と支援への感謝を世界に発信するプロジェクト。これに参加した飯舘村のエゴマは6月にアメリカから国際宇宙ステーションに打ち上げられ、約1か月間宇宙を旅して帰還しました。



右から「ワンアース」の長谷川洋一代表理事、エゴマ生産者「結い農園」代表の長正増夫さん(大久保・外内)、齋藤次男さん(深谷)、杉岡村長

海を渡り宇宙を旅したのは村民が生産したエゴマ約10グラム。帰還したエゴマ約10グラム。帰還したエゴマは8月23日に村役場で行われ、帰還したエゴマと、山崎直子宇宙飛行士の直筆サインが入った「フライト証明書」が届けられました。生産者代表は「今まで以上に大切に取り組みたい」「エゴマの健康効果を広めたい」と、杉岡村長は「村の子ども達にも今後の過程に関わってほしい。新たな産品に育て上げながら、村の魅力を発信したい」と、それぞれに意欲を語りました。

エゴマが「じゅうねん」と呼ばれるのは「食べれば10年長生きできるから」と伝わります。道の駅ではエゴマの実やエゴマ油、菓子などを販売中。宇宙エゴマの今後の展開に、期待が高まります。



ボックス内の袋の中が帰還したエゴマです。種まきは来年5月頃の予定です。



〈編集後記〉
● 今月号は、久々に「ひとのうごき」に明るい話題が入り、ハッピーな気持ちになりました。こんな時代だからこそ、命の尊さや未来について考えることが増え、小さな幸せが当たり前前ではないことに気づかされます。明るく楽しい未来を信じて、前を向いて突き進んでいきましょー!(菅野)
● P22で予告のコーナー。料理のイメージ写真は、取材を通して教わった食べ方を自宅で試した時のものです。ご協力頼みの企画で恐縮ですが、おいしさや楽しさと共に、村の農作物の魅力もお伝えしたく…取材依頼があった際には皆様何卒よろしくお願ひします。(星)

Native Speakers 第5回

ネイティブ・スピーカーズ 飯舘言葉の達人たち



よかったらこれみそでいびって

その意味は…



スマホのカメラをかざしてYouTubeで見ても

または検索で!

飯舘村 YouTube